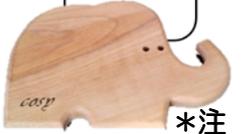


市内活動グループ訪問記

クリスマス



「障害者生活介護サービス事業所のびやか」さんを訪ねて



*注

12月23日(水)、冬晴れの暖かい昼前、横山公園から歩いて5、6分、横山団地バス停からも5分程の所にある「障害者生活介護サービス事業所のびやか」さんを、広報委員の植野さんと2名で訪問しました。1・2階が社会福祉法人さがみ愛育会の「認定こども園すいやか」で3階が「のびやか」さんの活動場所になっています。西向きのレストランから横山公園の樹々や野球場の照明が見え、とても見晴らしがよいです。



販売される製品を手にする利用者さん

通りに面したフェンスに「木工、陶芸、紙すき製品を一人ひとりの気持ちに合わせてながら、一つひとつ手作りしています。穏やかに、のびやかに、人とかかわりの中で自性を育てることを大切にしています」とメッセージボードがかけてありました(後日通った時にはクリスマスの飾りが獅子舞の絵にかわっていました。もうすぐお正月ですね。ちょっとで納品に行く車が出發するくらいです)。近くの横山団地バス停前の商店街の角に系列の「キッチンハウス横山」と「喫茶うらら」があり、手作り弁当やお菓子などを売っています。

3階の相談室に案内され、施設長の神沼由紀夫さんと支援員の小瀧未央さんにお話を伺いました。神沼さんのお話の冒頭に高橋ツギさん(長いことボフンティア協会と相談員をやっていた)の名前が出てきたのでびっくり。神沼さんが以前淵野辺保育園に勤めていたことが縁だったか。



利用者さんと相談員の小瀧さん

昭和40年代に横山団地ができ、すいやか保育園が生まれました。「のびやか」は平成13年に開所、現在48名が登録しているそうです。「のびやか」は生活支援を中心利用者を楽しんで通って来られる方々の個人に合わせた作業を考え、支援しています。ここで作っているさまざまな製品を見せていただいたとき説明を伺っている間も園庭から元気な声が聞こえてきます。テーブルの上に木工製品や陶芸作品が次から次々現れ、目をみはるばかり。紙面に書き添えませんが、小さいものはキーホルダーから30センチくらいの精巧な乗り物のおもちゃ(歩き始めた幼児がひびひして遊べるように紐がついて回る)、キッチンで使える鍋敷、牛乳パックの手すきはがきやおの等々。COSYのロゴマークが付いた製品も多くあり(COSYとは居心地の良い、快適なという意味があるそうです)、保育園の先生がデザインを考案したおもちゃがいくつもありました。

自立製品は直営のキッチンハウス中央・横山・下九沢の他、あじさい会館のパオバフ、ベッタバーナ、言葉生協和泉短大などで購入できます。おもちゃに名前を入れたり、個人の注文にも応じてくれるそうですよ。

12月のほかほかふれあいフェスタ冬のイベント・障害者週間キャンペーン(相模大野にて)にも参加され、手工芸品の売場は最後までにぎわっていたそうです。

(植野・三十尾)

*注 COSYのロゴマークが付いている鍋敷き

*障害者生活介護支援施設 のびやか
施設長 神沼 由紀夫
相模原市中央区横山4-12-14
TEL 042-757-2130

① アは「春」 ② は「方」
③ は「×」牛乳に含まれる栄養素であるタンパク質、ビタミンAなどは加熱に強い栄養素ですが、電子レンジで加熱すると急激に温度が上昇するため、ビタミンB12の量が半減してしまいます。鍋に入れて、④の加熱すれば栄養を損失していません。

⑤はブリキ缶 日本で牛乳が一般的に発売されるようになったのは明治初めの頃。大型のブリキ缶で運んだ牛乳をひしゃげると、1000g(98㎺)ずつ量の売りをしていました。1888(明治21)年に衛生的なガラス瓶が用いられたことになり、紙パックで販売されるようになったのは1955(昭和30)年になってからです。